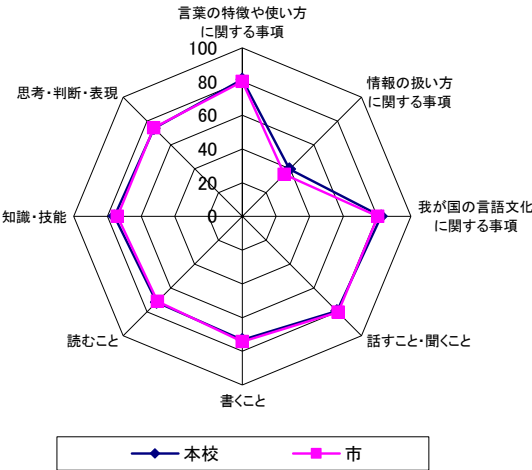


宇都宮市立陽西中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	81.3	80.0	76.5
	情報の扱い方に関する事項	39.7	35.2	29.3
	我が国の言語文化に関する事項	82.4	80.4	63.1
	話すこと・聞くこと	79.4	80.4	77.7
	書くこと	73.2	74.3	62.9
	読むこと	71.9	71.2	65.8
観点別	知識・技能	75.9	74.1	68.4
	思考・判断・表現	73.9	74.3	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	市の平均正答率より1.3ポイント高い。 ○「中学校第3学年までに学習した漢字を読むこと」, 「小学校で学習した漢字を書くこと」とともに市の平均正答率を概ね超えている。 ●「対義語」「敬語についての理解」については、市の正答率に比べそれぞれ8.3ポイント、0.6ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字練習帳を十分に活用し、定期的に小テストを行うことにより定着を図る。 ・敬語については尊敬語、謙譲語の使い分けの知識を正確に身に付けさせ、日常生活で的確に使えるよう適宜指導していく。 ・対義語については、読書や短文作成などにより、類義語、ことわざ、慣用句などの語彙力を身に付けさせていく。
情報の扱い方に関する事項	市の平均正答率より4.5ポイント高い。 ○説明的文章の「情報と情報との関係について理解し、論理の展開を捉える」は正答率が市の平均より5.2ポイント高い。	・説明的文章の読解の授業において、段落ごとの要約や、接続する言葉に着目するなど、論理の展開を捉える活動を行っていく。また、段落の関係を把握することで情報と情報との関係について気付けるよう助言する。
我が国の言語文化に関する事項	市の平均正答率より2ポイント高い。 ○「歴史的仮名遣いについての理解」の設問では、平均正答率は79.4%で、市の正答率より8.0ポイント高い。 ●「現代語を手がかりに古典を読んでいる」の平均正答率は85.3%で、市の正答率に比べ4.1ポイント低い。	・古典の授業では、1年生で学習する歴史的仮名遣いについて音読や小テストなどを行い定着を図る。2、3年生においては、既習事項の復習を繰り返す。また、多くの古典に触れ、その面白さを味わわせていく。
話すこと・聞くこと	市の平均正答率より1ポイント低い。 ○「話の展開を予測しながら聞いている」ことの正答率は、市の平均より2.0ポイント上回っている。 ●「進行の仕方を工夫して話し合っている」の正答率は78.2%で、市の平均より5.8ポイント低い。	・今後も話し合い活動や講話等を聞くうえで、話の内容を正確に聞き取るよう指導していく。また自分の考えを述べる際には、その根拠を明確にすることを意識するよう指導を継続する。 ・話し合い活動の中で、司会者の役割を明確にし、進行する上での工夫について指導していく。
書くこと	市の平均正答率より1.1ポイント低い。 ○「多様な読み手を説得できるように文章の構成を工夫する」の正答率は55.9%で、市の平均より5.7ポイント高い。 ●「3段落構成で文章を書く」の正答率は73.5%で、市の正答率に比べ7.3ポイント低い。	・意見文を書く際、まず自分の主張、それを支える根拠を考えさせ、構成を工夫して論を組み立てるよう指導をしていく。 ・「はじめ」「なか」「おわり」の3段落構成を意識させ、学習のまとめや発展学習として自分の考えを書く練習を積み重ねていく。その際、読み手を意識し、自分の考えを効果的に伝えられるよう助言していく。
読むこと	市の平均正答率より0.7ポイント高い。 ○文学的文章の「物語の展開の仕方を捉えている」の正答率は70.0%で、市の平均より2.4ポイント高い。 ●文学的文章の「文章を批判的に読みながら、登場人物の行動の意味について考える」の正答率は62.4%で、市の平均より1.7ポイント低い。	・文学的文章においては、まず人物像を捉え、前後の文脈から、なぜそのような言動をとったのか、など心情を考えさせていく。その際批判的な読み取りについても指導していく。